

平成26年6月23日

いつもご支援いただいている皆様へ

 サンフロンティア不動産株式会社
 (コード番号：8934 東証第一部)

「本当に強い会社2014」で不動産部門第1位になりました

東洋経済新報社の雑誌「週刊東洋経済」(2014年6月21日発行)が発表した「本当に強い会社2014」ランキングにおいて、当社は不動産部門第1位になりました。

本ランキングは東証1部上場の一般事業会社を対象とし、2014年3月期までの直近3期平均の財務データを基に、成長性、収益性、安全性、規模の4つの観点から同社が独自に企業を評価し、発表しているものです。当社は成長性ならびに収益性が特に高く評価されたことが今回の結果となりました。これもひとえに日頃より当社をご支援いただいているお客様、協力会社様及び株主様をはじめとする皆様のおかげであると考えております。

社員一人ひとりが目の前のお客様お一人おひとりにとって世界で一番頼りになる存在となれますよう、今後とも事業に取り組んでまいります。尚、詳細は以下の抜粋記事をご参照ください。



不動産業

業界天気予想(不動産)
 市況は改善基調にある。オフィス賃料が底入れし、マンションも堅調続く。ただ06、07年のような往時の勢いには遠い。



13年度 → 14年度

首位のサンフロンティア不動産は、規模面でまだ下位ながら、12年3月期の69億円から14年3月期177億円へと2.5倍の増収など成長性は1000点で満点。ROEなども向上した。追いかける**三井不動産**は15年3月期に販売価格改善などで最高純益更新を狙う。一方、**三菱地所**は前期ほどの大型物件売却がなく利益弱含みか。

▶トップ3が僅差で競い合う

順位	総合順位	社名	総合得点	代表者(年齢)	社長力順位	企業価値増大倍率(倍)	直近の通信簿				
							株働力	収益力	雇用力	株主力	社会力
1	98	サンフロンティア不動産	3,431	堀口智頭(56)	255	2.26	4	3	3	2	—
2	112	三井不動産	3,415	菰田正信(60)	236	2.32	4	5	4	2	3
3	120	三菱地所	3,407	杉山博孝(64)	448	1.77	2	5	1	2	4
4	241	FJネクスト	3,308	肥田幸春(62)	1604	0.67	2	3	2	5	—
5	297	大京	3,281	山口陽(57)	153	2.83	5	5	1	2	2
6	303	プレサンスコーポレーション	3,280	山岸忍(51)	72	4.19	1	4	3	3	—
7	397	野村不動産HD	3,256	中井加明三(63)	632	1.45	1	5	4	3	3
8	412	ファースト住建	3,251	中島雄司(57)	159	2.79	3	3	3	5	—

新・企業力ランキングとは

小社「財務・企業評価チーム」が作成(アドバイザー：山本昌弘・明治大学教授、研究担当副学長)。下記の財務データを基に、多変量解析の主成分分析手法を使って、4つの分野で企業を評価。各分野の配点は最低500点、最高1000点で、その合計点の高い順にランキングした(詳しい算出方法は「CSR企業総覧」2014年版に掲載)。決算は連結優先で変則決算は6カ月以上の決算期のみ使用、売上高、利益などのフロー項目は12カ月に調整した。

対象会社は2014年6月16日時点で東証1部に上場している一般事業会社で、銀行、証券、保険、その他金融を除く。決算期は14年3月期までを対象(一部、最新が13年3月期の企業もある)。財務データは上場後の決算で直近3期平均(最低1期は必要)を使用。指標データなどで分母がマイナスになり計算ができない場合、その期は「計算不能」となる。今回は速報版で、最終版は9月に作成予定。

成長性 売上高増減率、営業利益増減率、営業キャッシュフロー増減率、総資産増減率、利益剰余金増減率

収益性 ROE、ROA、売上高営業利益率、売上高当期利益率、営業キャッシュフロー

安全性 流動比率、D/Eレシオ、固定比率、総資産利益剰余金比率、利益剰余金

規模 売上高、EBITDA、当期利益、総資産、有利子負債

(注)EBITDAの支払利息と減価償却費にはキャッシュフロー計算書掲載の数字を使用